

第1章 高齢化の状況

第1節 高齢化の状況

1 高齢化の現状と推移

我が国の総人口は、平成16年（2004）年10月1日現在、1億2,769万人となり、この1年間で7万人（0.1%）増加したが、増加数、増加率とも戦後最低となった。

65歳以上の高齢者人口は、過去最高の2,488万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も19.5%に上昇している。

高齢者人口のうち、前期高齢者（65～74歳）人口は1,381万人、後期高齢者（75歳以上）人口は1,107万人となっている（表1-1-1）。

全国の100歳以上の高齢者数は、平成16（2004）年9月末現在で2万3千人を超え過去最高を更新したほか、90歳以上の高齢者数も初めて100万人を超えた。

表1-1-1 高齢化の現状

単位：万人（人口）、%（増加率、構成比）

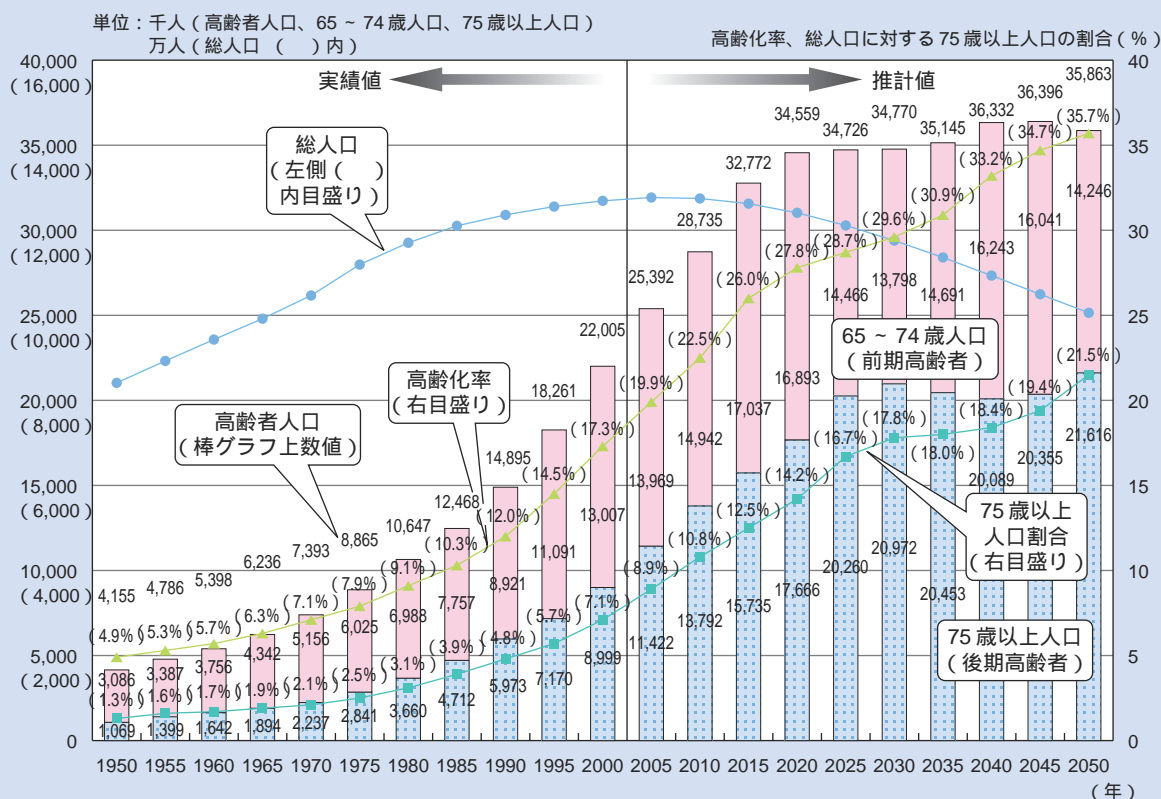
		平成16年10月1日			平成15年10月1日			増加数 (総数)	増加率 (総数)
		総数	男	女	総数	男	女		
人口 (万人)	総人口	12,769 (性比) 95.3	6,230	6,539	12,762 (性比) 95.4	6,230	6,532	7	0.1
	高齢者人口（65歳以上）	2,488 (性比) 73.1	1,051	1,437	2,431 (性比) 73.0	1,026	1,405	57	2.3
	前期高齢者（65～74歳）	1,381 (性比) 87.4	644	737	1,376 (性比) 87.2	641	735	5	0.4
	後期高齢者（75歳以上）	1,107 (性比) 58.1	407	700	1,055 (性比) 57.5	385	670	52	4.9
	生産年齢人口（15～64歳）	8,508 (性比) 100.8	4,270	4,238	8,540 (性比) 100.8	4,287	4,253	32	0.4
	年少人口（0～14歳）	1,773 (性比) 105.1	909	865	1,791 (性比) 105.2	918	873	18	1.0
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-
	高齢者人口（高齢化率）	19.5	16.9	22.0	19.0	16.5	21.5	-	-
	前期高齢者	10.8	10.3	11.3	10.8	10.3	11.3	-	-
	後期高齢者	8.7	6.5	10.7	8.3	6.2	10.3	-	-
	生産年齢人口	66.6	68.5	64.8	66.9	68.8	65.1	-	-
	年少人口	13.9	14.6	13.2	14.0	14.7	13.4	-	-

資料：総務省統計局「推計人口」（各年10月1日現在）
 （注）「性比」は、女性人口100人に対する男性人口の割合

高齢者人口は平成32（2020）年まで急速に増加し、その後はおおむね安定的に推移する一方、総人口が減少に転ずることから、高齢

化率は上昇を続け、27（2015）年には26.0%、62（2050）年には35.7%に達すると見込まれている（図1-1-3）

図1-1-3 高齢化の推移と将来推計



資料：2000年までは総務省「国勢調査」、2005年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」
 (注) 1955年の沖縄は70歳以上人口23,328人を前後の年次の70歳以上人口に占める75歳以上人口の割合を元に70～74歳と75歳以上人口に按分した。

2 地域別にみた高齢化

都道府県別の高齢化率は、三大都市圏で低く、それ以外の地域で高い。平成16(2004)年現在、最も高い島根県で26.7%、最も低い埼玉県で15.5%となっている。今後、高齢化率はすべての都道府県で上昇し、37(2025)年には、最も高い秋田県で35.4%、最も低い沖縄県でも24.0%に達すると見込まれている(表1-1-5)。

高齢化率による市区町村の分布は、昭和55(1980)年、60(1985)年には高齢化率10~15%未満を中心に集中していたが、平成12(2000)年には、高齢化率20~25%未満が最も多く、分布の広がりも大きくなっている。

3 高齢化の要因

我が国の平均寿命は戦後大幅に伸び、平成15(2003)年には男性が78.36年、女性は85.33年となっている。また、65歳時の平均余命は、男性18.02年、女性23.04年となっており、男女とも高齢期が長くなっている(図1-1-9)。

出生の状況をみると、合計特殊出生率は、第1次ベビーブーム以降急速に低下して昭和31(1956)年に2.22となり、50(1975)年に1.91と2.00を下回った。平成15(2003)年は1.29であり、過去最低水準となっている(図1-1-10)。

表1-1-5 都道府県別高齢化率の推移

	昭和50年 (1975)	平成16年 (2004)	平成37年 (2025)
全国	7.9	19.5	28.7
北海道	6.9	20.8	32.3
青森県	7.5	21.7	32.0
岩手県	8.5	23.9	31.6
宮城県	7.7	19.3	27.6
秋田県	8.9	26.1	35.4
山形県	10.1	24.9	32.0
福島県	9.2	22.1	30.2
茨城県	8.4	18.5	29.8
栃木県	8.3	18.8	28.9
群馬県	8.8	20.0	29.9
埼玉県	5.3	15.5	27.8
千葉県	6.3	16.8	29.2
東京都	6.3	18.0	25.0
神奈川県	5.3	16.2	25.8
新潟県	9.6	23.4	31.4
富山県	9.5	22.7	31.9
石川県	9.1	20.4	30.2
福井県	10.1	22.2	30.2
山梨県	10.2	21.3	29.4
長野県	10.7	23.2	29.9
岐阜県	8.6	20.3	30.0
静岡県	7.9	19.9	30.5
愛知県	6.3	16.6	26.1
三重県	9.9	20.8	29.9
滋賀県	9.3	17.5	24.5
京都府	9.0	19.7	28.6
大阪府	6.0	17.5	27.4
兵庫県	7.9	19.1	27.4
奈良県	8.5	19.1	30.0
和歌山県	10.4	23.2	32.3
鳥取県	11.1	23.6	30.8
島根県	12.5	26.7	32.8
岡山県	10.7	22.0	29.9
広島県	8.9	20.4	30.1
山口県	10.2	24.3	34.0
徳島県	10.7	23.9	31.9
香川県	10.5	22.7	31.4
愛媛県	10.4	23.3	32.5
高知県	12.2	25.3	33.3
福岡県	8.3	19.2	27.6
佐賀県	10.7	22.1	30.4
長崎県	9.5	22.8	33.1
熊本県	10.7	23.2	31.0
大分県	10.6	23.8	33.2
宮崎県	9.5	22.8	32.4
鹿児島県	11.5	24.3	30.8
沖縄県	7.0	16.1	24.0

資料：昭和50年は総務庁「国勢調査」、平成16年は総務省「平成16年10月1日現在推計人口」、平成37年は国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口(平成14年3月推計)」

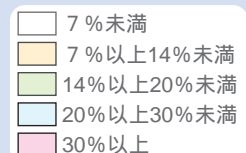
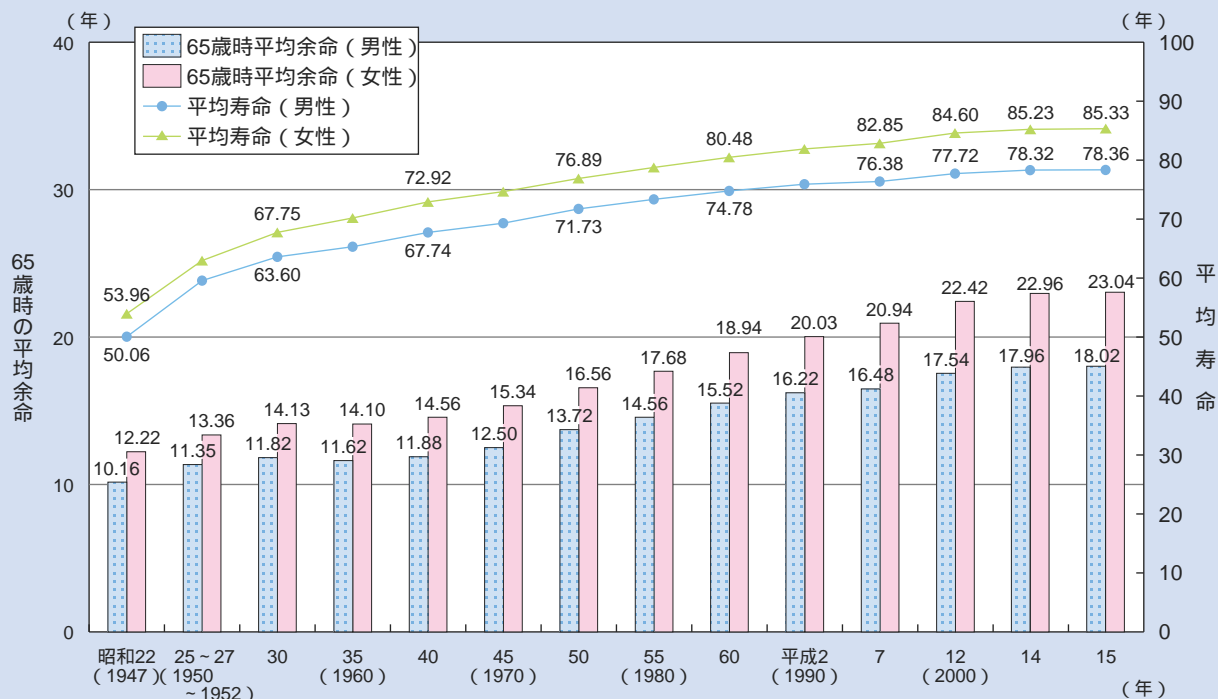
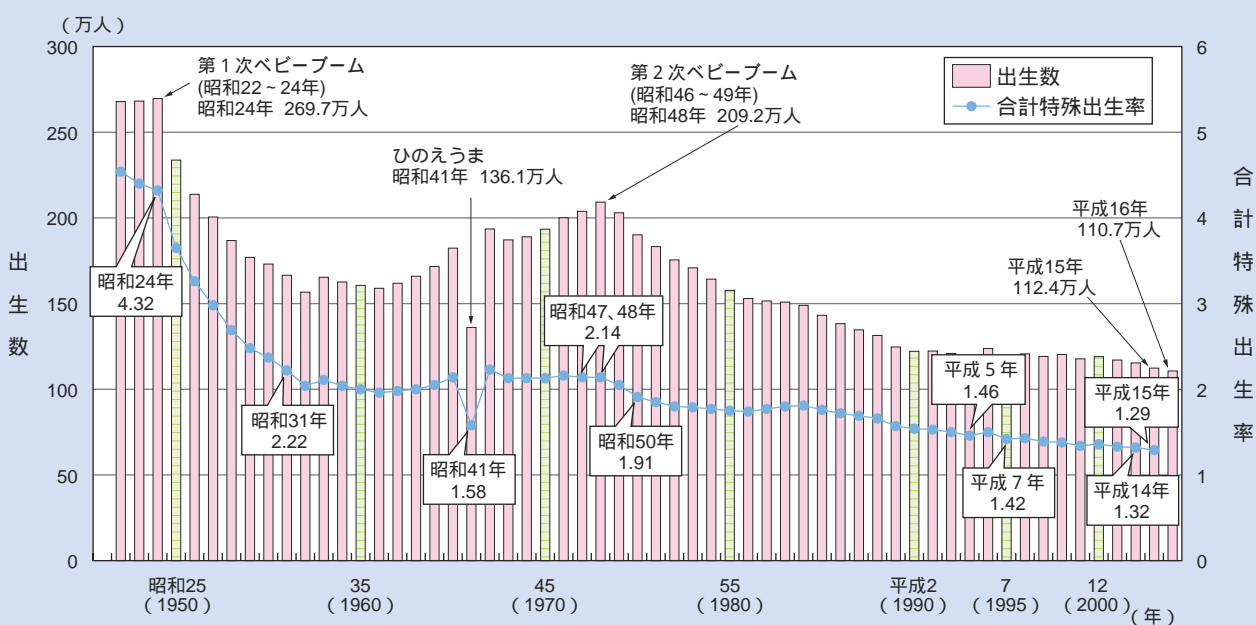


図1-1-9 平均寿命及び65歳時の平均余命の推移



資料：厚生労働省「生命表（完全生命表）」ただし、平成14、15年は「簡易生命表」

図1-1-10 出生数と合計特殊出生率の推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」

(注1) 平成16年の出生数は推計値

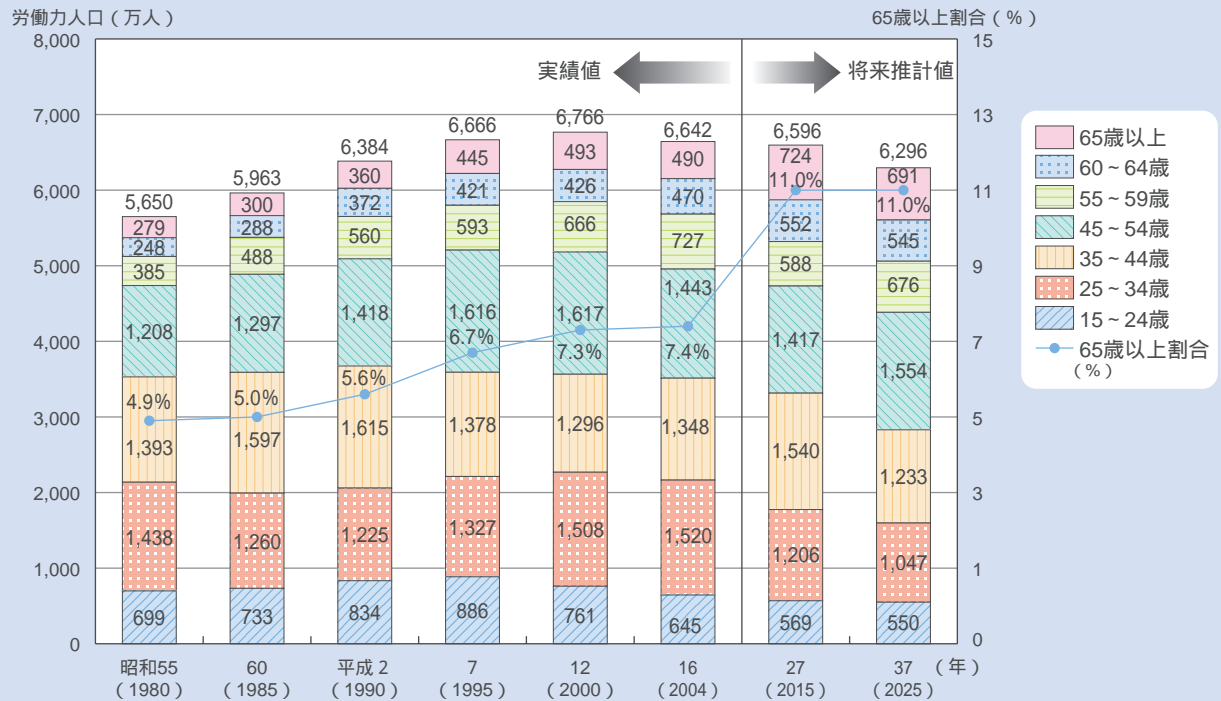
(注2) 昭和47年以前は沖縄県を含まない。

4 高齡化の影響

平成16(2004)年の65歳以上の労働力人口は490万人であり、労働力人口総数の7.4%を占めている。今後、労働力人口総数が減少に

転ずる中、労働力人口の高齡化は一層進展していくものと見込まれる(図1-1-15)。

図1-1-15 労働力人口の推移と見通し

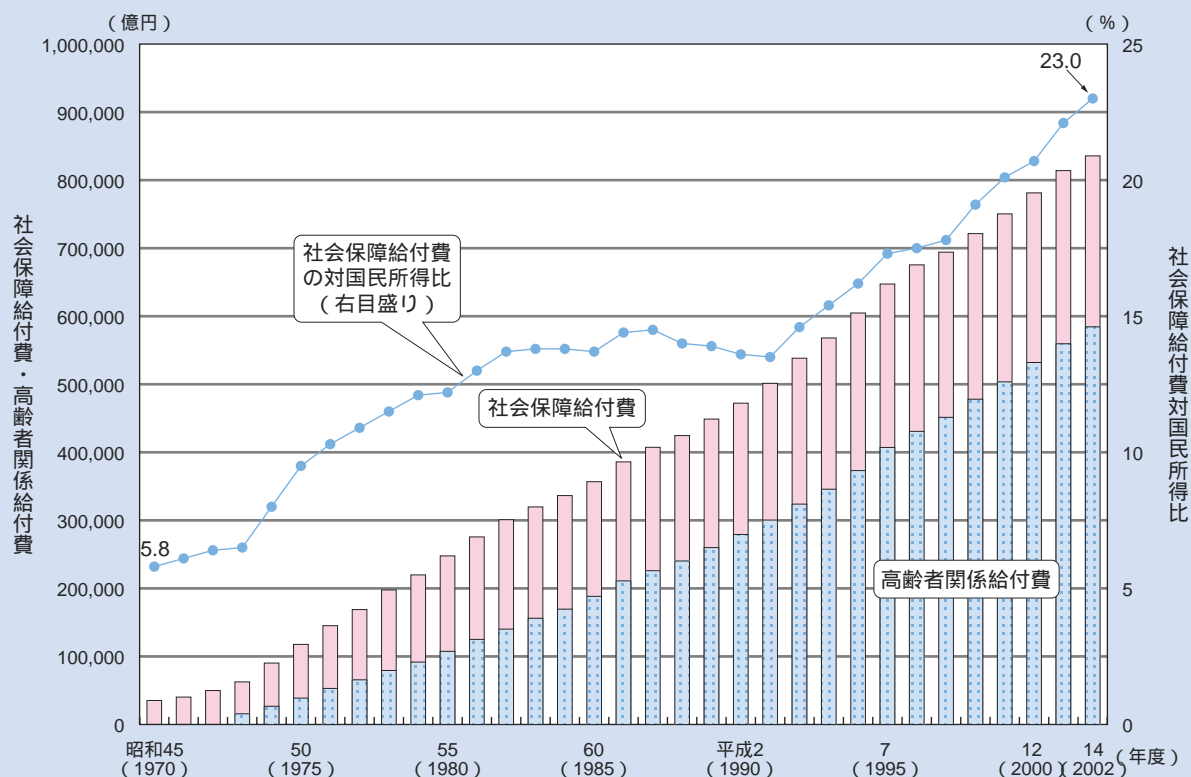


資料：2004年までは総務省「労働力調査」、2015年以降は厚生労働省推計
「労働力人口」とは、15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせたものをいう。

年金・医療・福祉その他を合わせた社会保障給付をみると、平成14(2002)年度は83兆5,666億円であり、国民所得に占める割合は、昭和45(1970)年度の5.8%から23.0%に上昇

している。高齢者関係給付費の内訳をみると、年金保険給付費が42兆5,025億円と全体の4分の3弱を占めている(図1-1-16)。

図1-1-16 社会保障給付費の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「社会保障給付費」

(注) 高齢者関係給付費とは、年金保険給付費、老人保健(医療分)給付費、老人福祉サービス給付費及び高年齢雇用継続給付費を合わせたもので昭和48年度から集計

5 高齢化の国際的動向

世界の高齢化率は、2005（平成17）年の7.4%から2050（62）年には16.1%まで上昇するものと見込まれており、今後半世紀で高齢化が急速に進展する（表1-1-18）。

先進諸国の高齢化率を比較すると、我が国は1980年代までは下位、90年代にはほぼ中位であったが、21世紀初頭には最も高い水準となることを見込まれている（図1-1-19）。

表1-1-18 世界人口の動向等

	1950年（昭和25年）	2005年（平成17年）	2050年（平成62年）
総人口	2,519,470 千人	6,464,750 千人	9,075,903 千人
65歳以上人口	130,875 千人	475,719 千人	1,464,938 千人
先進地域	64,034 千人	185,046 千人	320,738 千人
開発途上地域	66,841 千人	290,673 千人	1,144,200 千人
65歳以上人口比率	5.2 %	7.4 %	16.1 %
先進地域	7.9 %	15.3 %	25.9 %
開発途上地域	3.9 %	5.5 %	14.6 %
平均寿命（男性）	45.0 年	62.5 年	72.4 年
同（女性）	47.8 年	67.0 年	77.0 年
合計特殊出生率	5.0	2.7	2.1

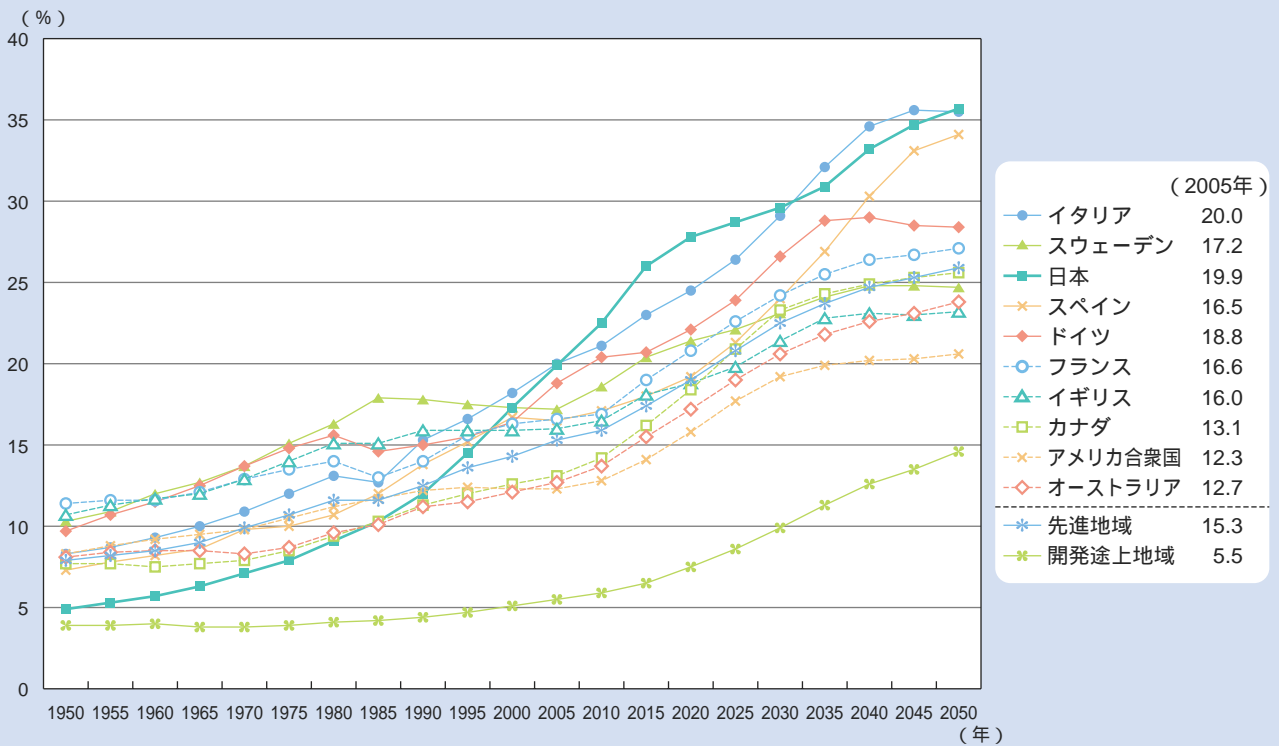
資料：UN, *World Population Prospects: The 2004 Revision*

（注1）平均寿命及び合計特殊出生率は、1950 - 1955年、2000 - 2005年、2045 - 2050年

（注2）先進地域とは、ヨーロッパ、北部アメリカ、日本、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。

開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア、ポリネシアからなる地域をいう。

図1-1-19 世界の高齢化率の推移



資料：UN, *World Population Prospects: The 2004 Revision*

ただし日本は、総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」による。

（注）先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドをいう。開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア、ポリネシアからなる地域をいう。